

■マップづくりの作業内容をイメージし、情報収集・マップ作成など各過程で必要な材料を準備しよう。

マップづくりは、各作業段階に応じて、様々な材料が必要となってきます。地域住民が主体となって作業を進めていくためには、情報の収集だけでなく、スムーズに作業を進めるための材料を事前に準備して、作業に取り掛かることが重要です。

1. 作業に必要な道具

情報を集めるためのタウンウォッチングや、マップづくりなど、各過程で必要な材料をあらかじめ準備しておくことが、マップづくりのはじまりになります。

1) タウンウォッチングなど、情報収集に必要な道具（例）

- ・地図※
- ・チェックリスト
- ・記録用紙
- ・カメラ
- ・筆記用具 など

タウンウォッチングなどの事例を参考に必要な材料を準備します。



※地図については step5 で説明します。

2) 地図の原案作成に必要な道具（例）

- ・丸い色つきのシール
- ・筆記用具
- ・色つきの付箋（ポストイット）
- ・修正液・消しゴム
（ペンでの記載を修正します）
など

効率的に収集した情報を集約・整理していくことがポイントです。



3) 地図の清書（仕上げ）に必要な道具（例）

- ・ベース図※
- ・マーク・アイコン
- ・マーカー
- ・清書用のソフト（パソコン）
（イラストレーター等のソフト）
など

視認しやすい防災マップに仕上げるために必要な道具を揃えます。



※地図については step5 で説明します。

2. 防災マップに必要な情報の収集

マップをつくるためには、防災情報を収集することが必要です。収集には、タウンウォッチングなどにより、みんなでまちを歩いて情報を探ることが効果的です。

1) 住んでいる地域をよく知ることから始めよう ～タウンウォッチング～

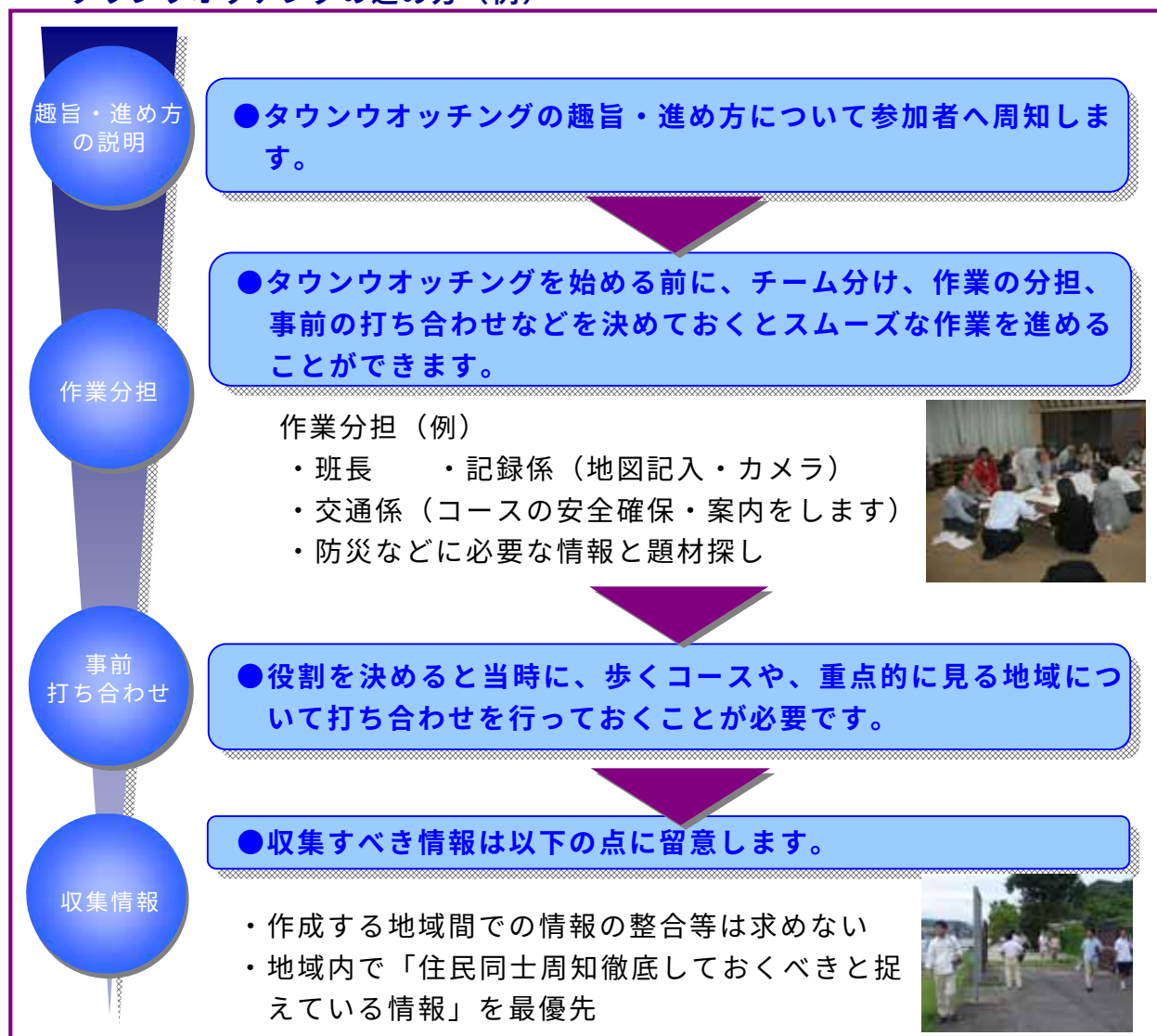
住んでいる地域の現状を正確に把握することは、防災活動を進めていくうえでの大切な出発点といえます。

また、あらゆる災害の危険性を知るには、行政の情報や専門家による地域危険度の測定なども必要ですが、住んでいる地域の人々が中心に防災に関する様々な内容を知ることとはとても重要なことです。

それ以上に、地域住民が共同で地域の危険箇所などを点検し地図に書き入れていく作業は、住民が住んでいる地域をよく知る機会を得ると同時に、活動の目標を立てたり、非常時の対応を考えたりする際の重要な手がかりになります。

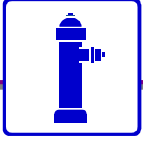
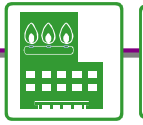
また、地域オリエンテーリングなどのイベントと組み合わせるなど、やり方を工夫すれば、楽しい共同作業になり、役員や住民の一体感と防災への関心を高めることにつながります。

タウンウォッチングの進め方（例）



マップの作成は、定型に捕われず、地域住民が個々に把握している①避難場所、②災害時に役立つ物（消火栓の位置、備品等の格納位置等）や、③危険なもの、場所（過去に氾濫した水路の位置、崖くずれ等常襲箇所等）など、「地域内で住民同士周知徹底しておくべきと捉えている情報を最優先」し盛り込みます。

収集する情報（例）

①避難場所	②災害時に役立つもの	③危険なもの、場所
●学校 ●空き地 ●公園 ●公共施設 ●病院・診療施設 - など	●消火栓の位置 ●防災備品の格納場所 ●一次避難場所 ●通信施設 (防災無線、公衆電話) - など	●火災・崩壊などの危険建物の状況 ●石塀やブロック塀 ●過去の氾濫箇所 ●災害危険箇所 ●危険物取扱い施設 (ガソリスタント・工場) - など
 	 	 

※その他、把握しておくべき情報として、独居高齢者、要介護者等の災害時要援護者の状況や段差等移動の障害となるものなどが挙げられます。

2) その他の情報収集の方法

①個々に把握している情報を持ち寄る

地域住民が日頃から個々に把握している避難場所、危険な箇所などの情報をワークショップ、アンケートなどにより収集することも有効です。

②行政からの協力により情報を得る

地域住民だけでは把握しきれない情報（過去の浸水区域、氾濫した水路など）を行政からの協力により収集します。

行政から得る情報（例）

- | | |
|---------------|-------------|
| ●河川・海岸の重要水防箇所 | ●土石流危険渓流 |
| ●地すべり危険箇所 | ●急傾斜地崩壊危険箇所 |
| ●雪崩危険箇所 | ●山地災害危険地区 |
| ●浸水想定区域図 | ●危険物大量保有事業所 |

など

■各モデル地区の方々は、次のような材料を準備してマップづくりに取り組まれたようです。

「防災マップ」の作成を進めた地域の方々を対象に、今回の取り組みについてアンケートを実施しました。

●マップづくり用の材料（情報）●

●地域内の施設の実状を実際に見て情報収集。

本地区では、「いざというときに必要な、役に立つ情報」をマップに反映させようと、それらの情報収集の中で、消火栓等の位置や、道路の狭さなど改めて地域内の施設を見て回られた上で情報を集められたようです。

●「過去の災害」の情報収集に苦労。

本地区では、マップの主要な情報として「過去の災害の位置や場所」など今後の教訓をマップに反映させようとしたようです。

- 「地元消防団」や「福祉関係者」などの生きた情報を収集。
- 他地区の事例などマップに関する資料情報が欲しい。

本地区では、「地元消防団」や「福祉関係者」などの方々にも参加を募り、マップの主要な情報として「災害のときに知っておくべき生きた情報」（土のうが配備されている場所や要介護者の居住状況など）今後の教訓をマップに反映させようとしたようです。

また、一方で、作業を進める上での他地区の事例などマップに関する資料情報が欲しかったとの声も頂いています。